

* 研究目的

「動機づけ」は、教育分野においても重要なテーマとして研究されてきた。どのような分野であれ、学習がおこるときには、その理由、意欲の度合い、効果や継続について動機づけが深く関与しているからである。われわれは、高等教育、とくに大学教育において、学生たちが専門教育や外国語教育に「やる気」を感じ、それを持続させ、一定の成果を達成するために、高等教育独自の動機づけ研究が重要であると考えている。そのためには、内容関与的な動機づけを高め、知識を主体的に構成していくことに喜びや楽しさを感じる、「くじけない学習者」「自律的な学習者」に学生を育てていくことが肝要であろう。本研究では、教育学的視点、社会学的視点、および言語教育研究の視点から、学際的協力によって、大学生の学習における動機づけの本質に迫りたい。

* 研究チームメンバーと研究課題

藤原三枝子	甲南大学国際言語文化センター 准教授	外国語担当教員の「継続的能力開発」のための基礎研究
平松 闊	甲南大学文学部社会学科教授	大学生に対するアンケート調査等 社会調査の実施と分析
原田登美	甲南大学国際言語文化センター	日本語教育の現状と今後の課題
森田昌美	甲南大学国際言語文化センター 非常勤講師	外国語担当教員のプロフェッショナル ナリティーの形成